

平成 28 年度「学校評価」まとめ

○学部職員

①全ての項目でプラス評価である。

②意見より

項目 2：敬語の指導がより必要

項目 7：職員から率先して生徒へ挨拶をしていく。

項目 16：生徒や保護者への連絡も含めて、学部・舎の報・連・相を徹底する。

○寄宿舎職員

①全ての項目でプラス評価である。

②意見より

項目 3,22：敬語の使い方を含めて、TPO に応じた言葉の指導を行う。

項目 8,9：寄宿舎指導員も進路（雇用制度や進路状況など）について知っているべきであり、面談等の中でも積極的に話題に取り入れるべきである。

項目 12：性教育に関する内容・方法を学部職員と共有しながら、効率的・効果的な指導を心がける。

項目 24,25：課題解決へ向け、役割や自己肯定感へつなげられるよう生徒の主体的な活動を促す。

○保護者

①全ての項目でプラス評価である。

②意見より

項目 2：学部を含め、災害時の安全避難ルートや危機管理マニュアルの保護者への周知が必要。
（PTA 総会、評議員会、資料配付など）

項目 8：職朝などで全職員へ言葉使いや聴く姿勢について注意するよう周知を図る。また生徒の課題に対しては、保護者・学部・舎で情報を確認・共有しながら対応していく。

項目 11：金銭感覚については、余暇活動において生徒自身で内容・時間・予算など企画・運営を生徒自身に行わせるよう支援しています。今後さらに家庭と連携を図りながら、就業による賃金や生活費などについて指導して行く必要がある。

項目 18：「ささいな事で特別指導になる」ということに対しては、社会自立を踏まえ、校則に則って指導しています。また保護者とも確認しているつもりですが、今後生徒及び保護者との確認をより強化していく。

○「学校評価」からみられた課題

①対人関係・コミュニケーション指導（職員が率先した敬語、TPO、言葉使いを含めて）

②挨拶の徹底

③職員同士、保護者への報・連・相

④進路に関する研究

⑤性教育に関する研究

⑥自己肯定感へつなげる指導の充実

⑦災害時対応に関する保護者への周知

⑧生活自立を踏まえた金銭管理の指導

⑨生徒指導に関しての保護者との連携

⑩分教室の高等支援学校開校へ向けての取組